

【 2010年3月期第2四半期累計期間 決算説明資料 】

2009年11月19日

株式会社日本製鋼所

代表取締役社長 佐藤 育男

ご注意

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料では、2010年3月期第2四半期累計期間を「中間期」と表記しております。

目次

第1部 10.3期第2四半期(中間期)実績及び通期予想	P3	第2部 中期経営戦略の概要	P15
(1) 決算概要	P4	(1) 目指す企業像「ものづくりNo.1グローバル企業」	P16
(2) 営業利益変動要因分析	P5	(2) 経営理念と行動基準	P17
(3) セグメント別売上高・営業利益の状況	P6	(3) 経営方針	P18
(4) 鉄鋼製品関連事業の業績:売上高	P7	(4) 電力・原子力製品	P19
(5) 機械製品関連事業の業績:売上高	P8	(5) 石油精製用圧力容器	P20
(6) 財務体質の状況	P9	(6) クラッド鋼板・鋼管	P21
(7) 設備投資・減価償却費の推移	P10	(7) 樹脂製造・加工機械	P22
(8) セグメント別受注高の状況	P11	(8) 成形機	P23
(9) 鉄鋼製品関連事業の業績:受注高	P12	(9) 風力発電機器	P24
(10) 機械製品関連事業の業績:受注高	P13	(10) 設備投資状況:鉄鋼製品	P25
(11) セグメント別受注残高の状況	P14		
		参考	P27

第1部 2010年3月期第2四半期(中間期)実績及び通期予想

(1) 決算概要

(単位: 億円)

	09.3期 中間期 (A)	10.3期中間期		前年 同期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年 同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
		当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
売上高	1,095	1,030	1,026	△ 69	△ 4	2,271	2,170	2,050	△ 221	△ 120
営業利益 (率)	174 15.9%	144 14.0%	181 17.7%	7	37	366 16.1%	280 12.9%	300 14.6%	△ 66	20
経常利益	174	140	180	6	40	359	270	290	△ 69	20
純利益	97	80	101	4	21	160	155	165	5	10
1株当たり 純利益	26.16円	21.55円	27.41円	1.05円	5.66円	43.19円	41.75円	44.45円	1.26円	2.66円

10.3期中間期

【当初予想比】

- ・ 売上高は予想通りに推移。
- ・ 営業利益・経常利益・純利益は、固定費・変動費減少等で予想を上回った。

【前年同期比】

- ・ 売上高は、電力・原子力、石油精製用圧力容器、クラッド鋼管、風力発電機器は増加するも、クラッド鋼板、樹脂製造・加工機械、射出成形機等が減少し、前年同期比69億円減少。
- ・ 営業利益は、鉄鋼製品関連事業における原材料費改善等により、前期並みの181億円。

10.3期通期

【当初予想比】

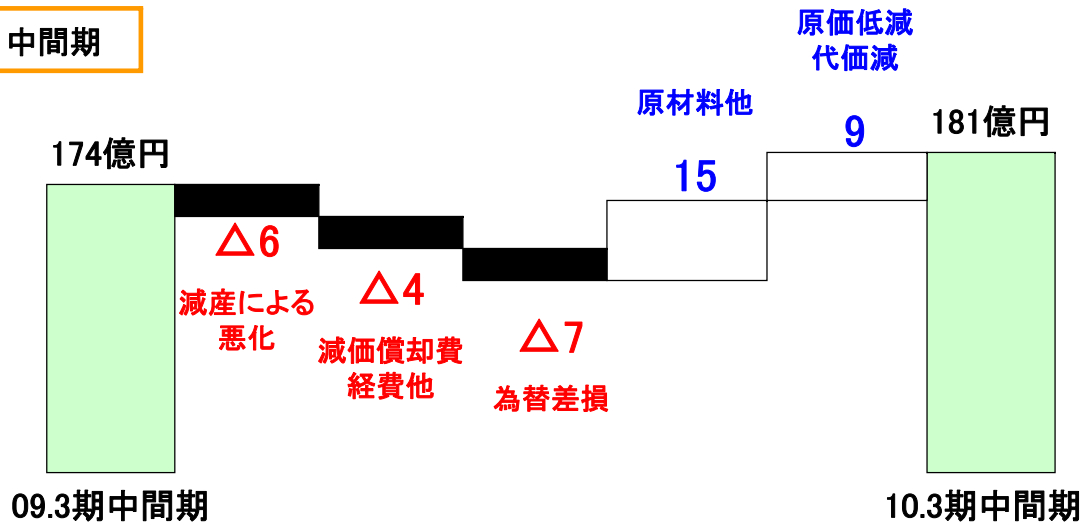
- ・ 売上高は、クラッド鋼板、樹脂製造・加工機械が減少した他、石油精製用圧力容器と風力発電機器の一部案件における来期以降へのプロジェクト延期の影響を受け、減少を予想。
- ・ 営業利益は、固定費圧縮、原価低減、電力・原子力の生産増による稼働率向上により、予想に対し増加の見通し。

【前年同期比】

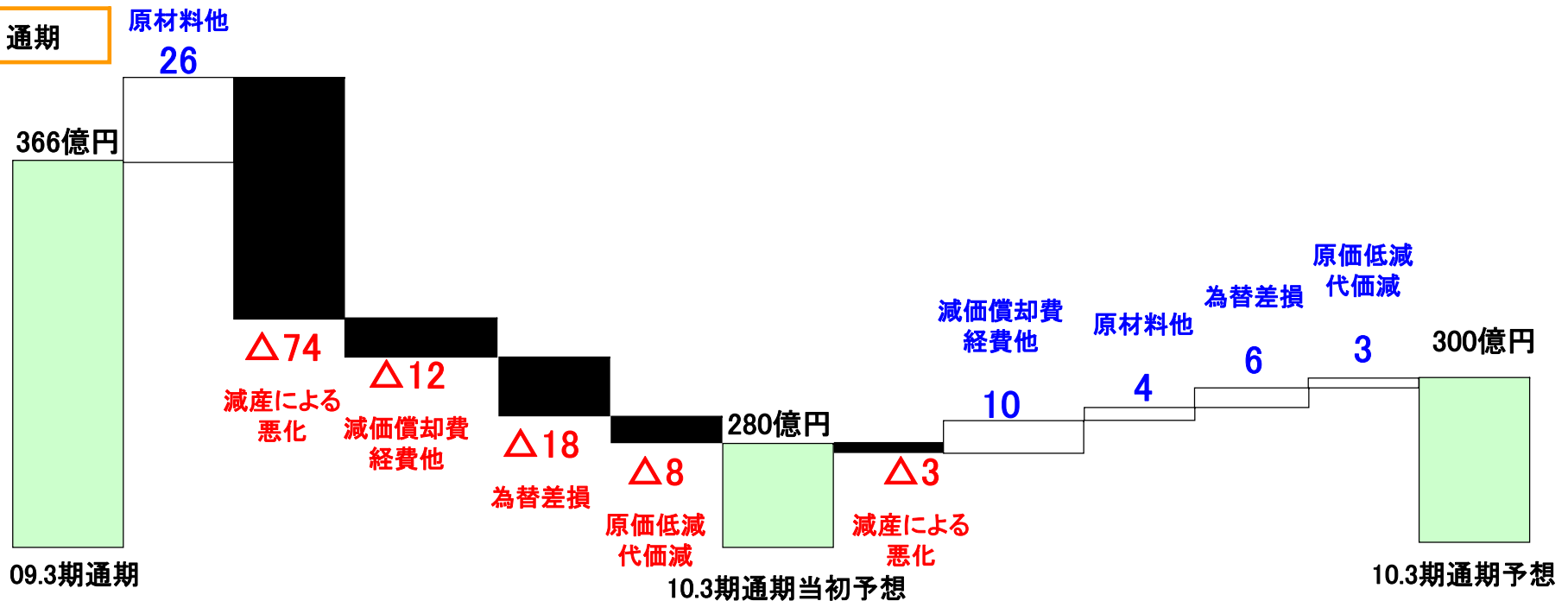
- ・ 売上高は、鉄鋼でクラッド鋼板が、機械で全般に減少し、221億円減少予想。
- ・ 営業利益は、主に減産により66億円減の見込み。

(2) 営業利益変動要因分析

中間期



通期



(3) セグメント別売上高・営業利益の状況

(単位: 億円)

		09.3期 中間期 (A)	10.3期中間期		前年 同期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年 同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
			当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
鉄鋼製品 関連事業	売上高	496	560	559	63	△ 1	1,078	1,080	1,030	△ 48	△ 50
	営業利益	140	163	186	46	23	314	310	320	6	10
	率	28.3%	29.1%	33.2%			29.2%	28.7%	31.1%		
機械製品 関連事業	売上高	589	462	458	△ 131	△ 4	1,174	1,073	1,000	△ 174	△ 73
	営業利益	62	12	24	△ 38	12	114	32	42	△ 72	10
	率	10.6%	2.6%	5.2%			9.7%	3.0%	4.2%		

10.3期中間期

【鉄鋼製品】

- ・ 売上高は当初予想通り推移。営業利益は原材料価格の下落や、生産性の向上等により予想を上回った。

【機械製品】

- ・ 売上高は当初予想通り推移。営業利益は固定費削減、変動費の減少により予想を上回った。

10.3期通期

【鉄鋼製品】

- ・ 当初予想に比し、石油精製用圧力容器及びクラッド鋼板・鋼管の売上が減少。営業利益は、当初予想に比し10億円の増加に留まる。

【機械製品】

- ・ 売上高は、当初予想に比し成形機の増加が見込まれるも、風力発電機器等が減少。営業利益は、中間期の増益が寄与し、10億円増加。

(4) 鉄鋼製品関連事業の業績:売上高

(単位:億円)

	09.3期 中間期 (A)	10.3期中間期		前年 同期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年 同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
		当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
電力・原子力	189	220	224	35	4	365	455	470	105	15
石油精製用圧力容器	76	150	151	75	1	219	265	242	23	△ 23
クラッド鋼板・鋼管	154	143	128	△ 26	△ 15	349	210	190	△ 159	△ 20
その他	53	30	37	△ 16	7	102	105	95	△ 7	△ 10
連結会社他	24	17	19	△ 5	2	43	45	33	△ 10	△ 12
合計売上高	496	560	559	63	△ 1	1,078	1,080	1,030	△ 48	△ 50

【電力・原子力】

- ・ 中間期・通期ともに生産に起因する大きな売上変動はなく、当初予想通り順調に手持ち案件を消化していく。
- ・ 中間期の売上高は、前期に配船都合により出荷の遅れた原子力製品の売上ずれ込みにより当初予想比微増。

【石油精製用圧力容器】

- ・ 納期が来期以降に延期された案件が発生し、通期の売上高は当初予想に比し減少。

【クラッド鋼板・鋼管】

- ・ 鋼板需要の回復の遅れで、当初予想に対し中間期売上は減少。
- ・ 通期では、鋼管は当初予想通りの売上を予定する。一方、鋼板は需要の回復が遅れており、3Qでの受注確保が鍵となる。

(5) 機械製品関連事業の業績:売上高

(単位:億円)

	09.3期 中間期 (A)	10.3期中間期		前年 同期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年 同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
		当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
樹脂製造・加工機械	187	120	114	△ 73	△ 6	369	245	225	△ 144	△ 20
成形機	166	50	50	△ 116	0	272	110	130	△ 142	20
風力発電機器	6	65	91	85	26	18	265	190	172	△ 75
その他	106	130	105	△ 1	△ 25	250	250	243	△ 7	△ 7
連結会社他	124	97	98	△ 26	1	265	203	212	△ 53	9
合計売上高	589	462	458	△ 131	△ 4	1,174	1,073	1,000	△ 174	△ 73

【樹脂製造・加工機械】

- ・ 国内市場における設備投資の縮小・延期が影響し、二軸混練押出機を中心に受注が減少、売上減少に繋がる。

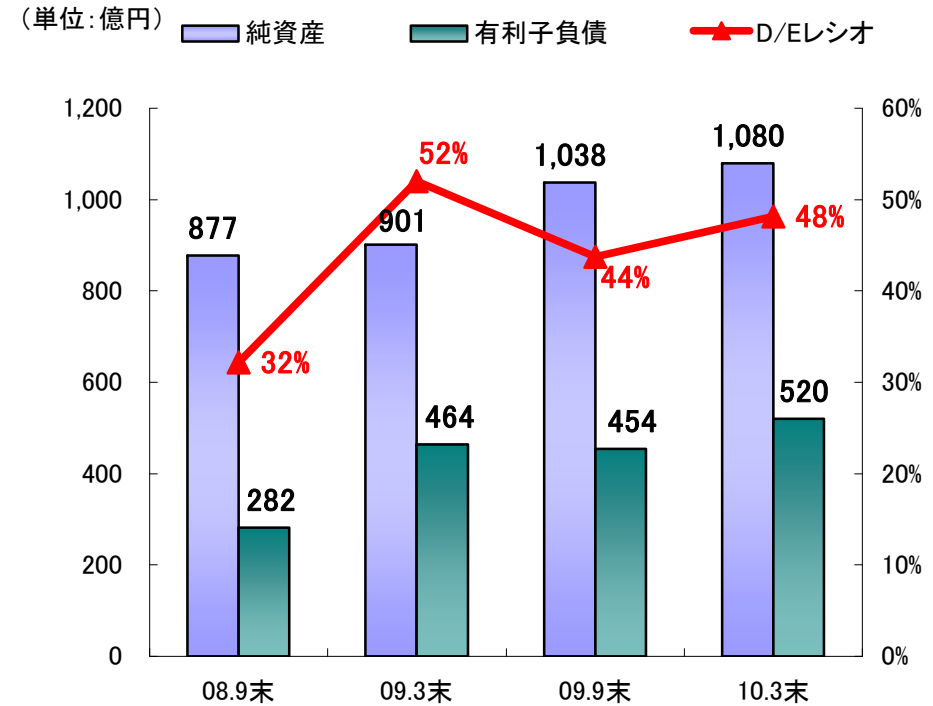
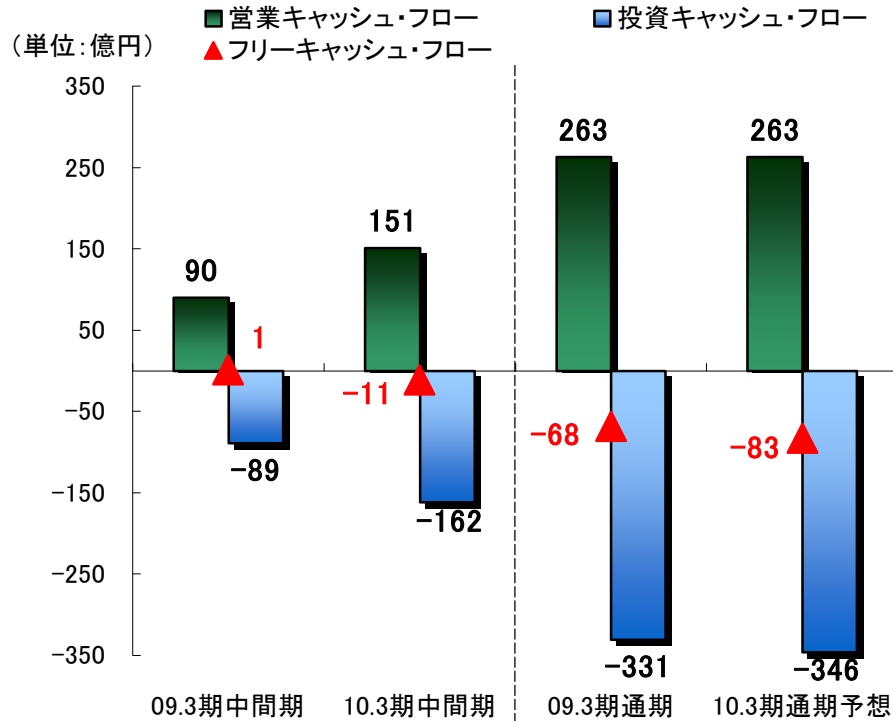
【成形機】

- ・ 中間期は、国内・米国向けが減少し、中国・韓国・台湾向け比率が増加。
- ・ 売上に占める自動車産業関連の比率が前年度39%から20%に減少。容器、医療、生活日用品向けの比率が増加。
- ・ 通期では堅調な生活日用品向けなどを中心に、海外向け中・大型機の売上増加を見込む。

【風力発電機器】

- ・ 中間期は、当初予想で下期に売上を予定した案件が前倒しとなり売上は増加。
- ・ 通期では、設置工事のスケジュール変更の影響により、売上の一部が次年度にずれ込む。

(6) 財務体質の状況



- ・ 中間期は、前年同期に比し営業キャッシュフローは増加するも、高水準の設備投資継続によりフリーキャッシュフローは減少。
- ・ 通期でも、投資キャッシュフローが営業キャッシュフローを上回り、フリーキャッシュフローは83億円のマイナス。

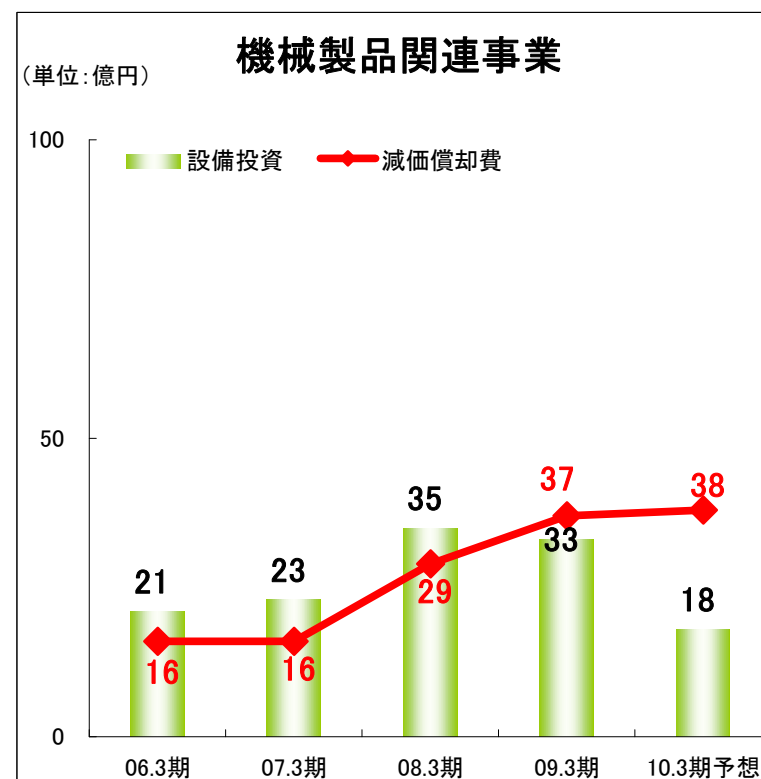
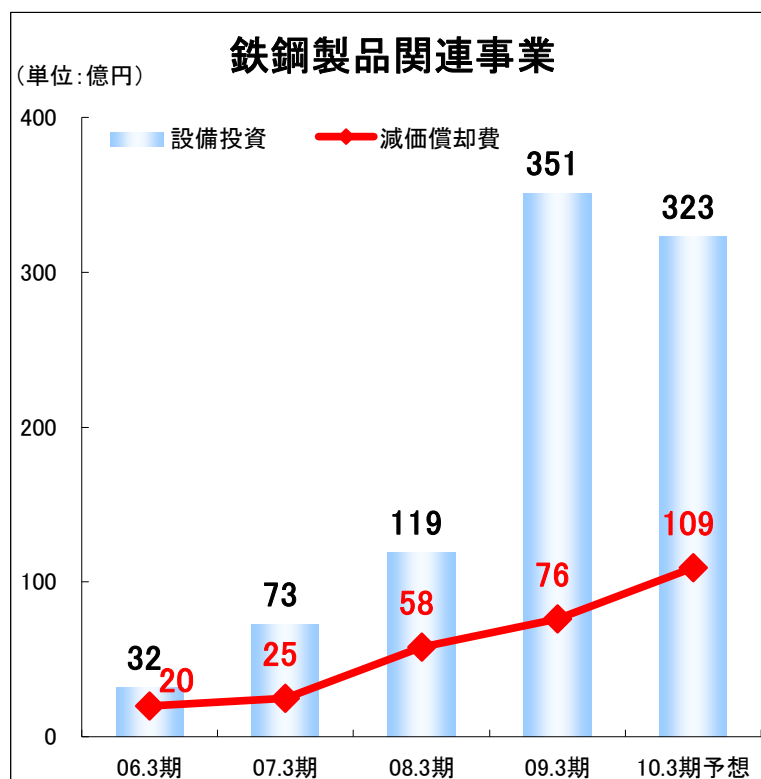
- ・ 09.9末において純資産が1,000億円を超える。
- ・ 10.3末の有利子負債残高は520億円に留める予定。資金の一層の効率化を図り、財務バランスの維持に努める。

(7) 設備投資・減価償却費の推移

(単位: 億円)

	06.3期	07.3期	08.3期	09.3期	10.3期予想
設備投資	55	101	160	386	346
減価償却費	41	46	92	118	153

※ 減価償却費には09.3期以降リース償却費を含めた数値を表示しております。



(8) セグメント別受注高の状況

(単位: 億円)

	09.3期 中間期 (A)	10.3期中間期		前年 同期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年 同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
		当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
鉄鋼製品関連事業	671	432	423	△ 248	△ 9	1,200	1,140	1,110	△ 90	△ 30
機械製品関連事業	668	449	344	△ 324	△ 105	1,186	1,299	1,130	△ 56	△ 169
地域開発関連事業	9	8	9	0	1	17	17	20	3	3
合計受注高	1,348	889	776	△ 572	△ 113	2,404	2,456	2,260	△ 144	△ 196

10.3期中間期

- ・ 10.3期中間期の受注高は、主にクラッド鋼管及び風力発電機器におけるプロジェクトの11.3期へのスケジュール変更の影響を受け、当初予想に比し100億円強減少。
- ・ その他の主要製品の受注は概ね計画通りに推移。

10.3期通期

受注高は当初予想の通り下期偏重となっており、現在の予想では鉄鋼製品で700億円弱、機械製品で800億円弱の受注を予想。

①鉄鋼製品関連事業

- ・ 電力・原子力製品は特に大型品の需要が引き続き堅調であり、当初予想通り受注の積み上がりを予想する。クラッド鋼管は大型プロジェクトの受注を予想。

②機械製品関連事業

- ・ 造粒機、フィルムシート装置の受注は、中国市場を中心に概ね当初予想通り推移。一方、それ以外の製品は市場の低迷とそれに伴う競争激化もあり、受注環境は引き続き厳しい。

(9) 鉄鋼製品関連事業の業績: 受注高

(単位: 億円)

	09.3期 中間期 (A)	10.3期中間期		前年 同期比 (C)-(A)	当初 予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年 同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
		当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
電力・原子力	289	280	302	13	22	599	580	598	△ 1	18
石油精製用圧力容器	149	0	4	△ 145	4	197	140	140	△ 57	0
クラッド鋼板・鋼管	157	85	47	△ 110	△ 38	251	270	235	△ 16	△ 35
その他	53	50	49	△ 4	△ 1	110	105	102	△ 8	△ 3
連結会社他	23	17	21	△ 2	4	43	45	35	△ 8	△ 10
合計受注高	671	432	423	△ 248	△ 9	1,200	1,140	1,110	△ 90	△ 30

【電力・原子力】

- ・ 火力・原子力発電向け大型鍛鋼品の需要は堅調に推移。10.3期中間期では、下期以降に計画された複数の案件を前倒して受注し、全体で増加した。

【石油精製用圧力容器】

- ・ 当中間期の受注は手持案件の代価是正分が中心。
- ・ 昨秋の金融危機以降、鍛鋼製石油精製用圧力容器のプロジェクトは動きが鈍くなっているが、本下期に入り、中東、南米などの地域で個別案件の入札が予定されている。
- ・ 但し、競争の激化と円高の影響により、過年度に比し、事業環境は厳しい。

【クラッド鋼板・鋼管】

- ・ 上期は、鋼板は計画通り受注するも、鋼管は1案件が11.3期に延期となり、当初予想を38億円下回る。
- ・ 下期、鋼板は石油精製関連、海水淡水化用途の受注を見込む。鋼管は西オーストラリア地区の大型プロジェクトの受注を見込む。

(10) 機械製品関連事業の業績：受注高

(単位：億円)

	09.3期中間期 (A)	10.3期中間期		前年同期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)	09.3期 通期 (D)	10.3期通期		前年同期比 (F)-(D)	当初 予想比 (F)-(E)
		当初予想 (B)	実績 (C)				当初予想 (E)	予想 (F)		
樹脂製造・加工機械	179	110	103	△ 76	△ 7	258	340	320	62	△ 20
成形機	150	55	58	△ 92	3	182	115	135	△ 47	20
風力発電機器	107	100	8	△ 99	△ 92	217	335	235	18	△ 100
その他	89	85	93	4	8	238	300	270	32	△ 30
連結会社他	143	99	82	△ 61	△ 17	291	209	170	△ 121	△ 39
合計受注高	668	449	344	△ 324	△ 105	1,186	1,299	1,130	△ 56	△ 169

【樹脂製造・加工機械】

- ・ 当中間期は、造粒機、フィルムシート装置の中国向け受注は好調に推移するも、二軸混練押出機の市場回復は遅れている。
- ・ 下期は引き続き中国市場を中心に造粒機、フィルムシート装置の受注を狙う。また、他のBRICs及び中東市場の回復時に備え、受注拡大への取り組みを進める。

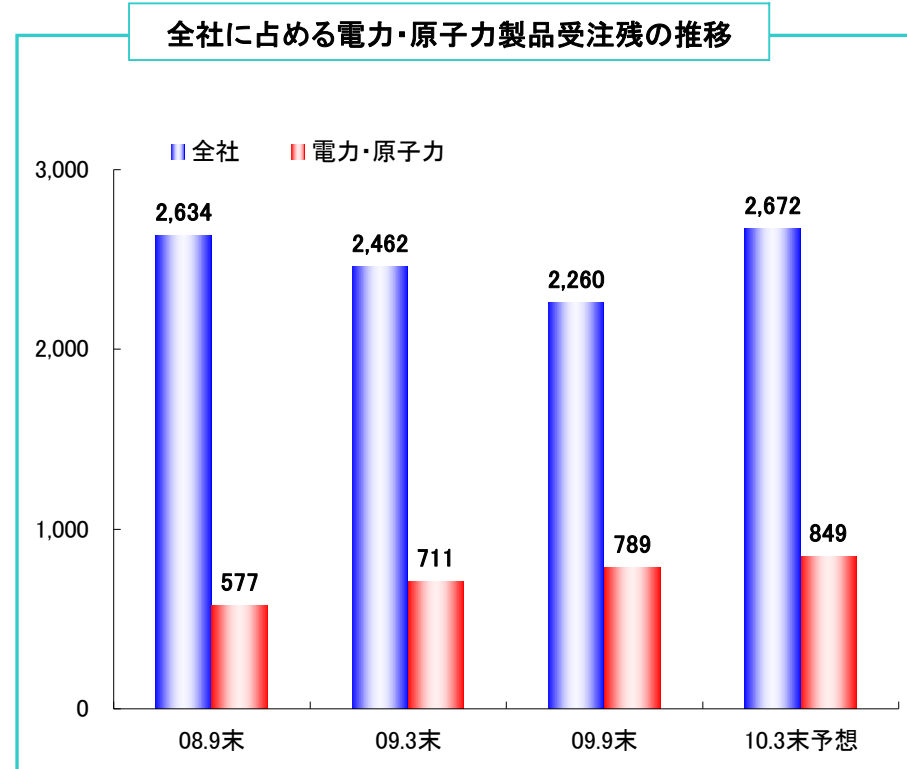
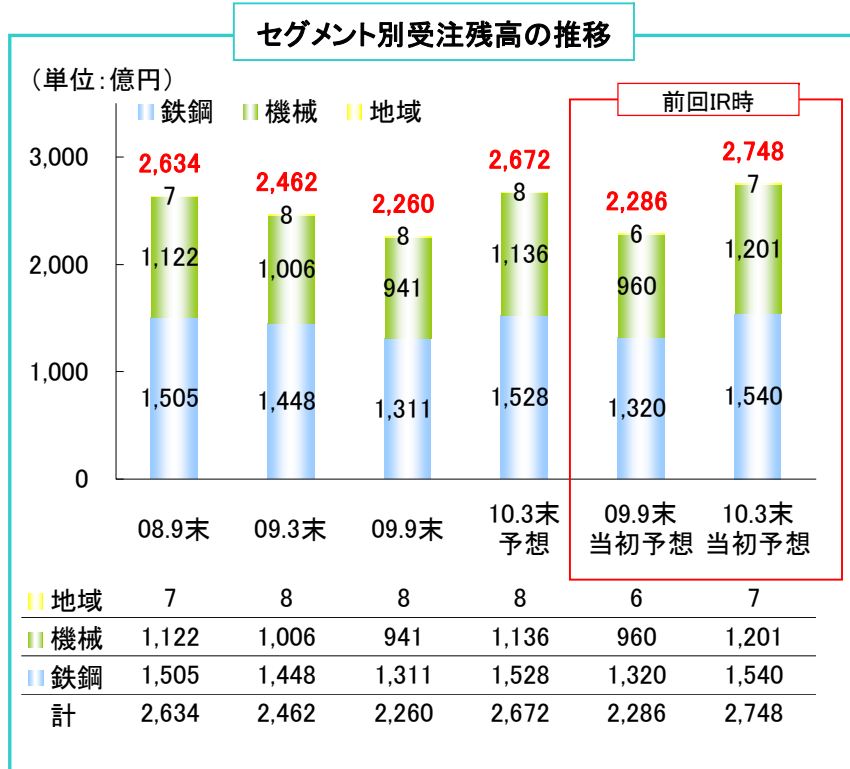
【成形機】

- ・ 需要の50%を占める自動車産業の回復が遅れており、受注環境は依然として厳しい。
- ・ 生活日用品向け中・大型機の需要は堅調に推移し、計画を上回る。

【風力発電機器】

- ・ 当中間期は、予定案件の09.3期における前倒し受注、及び下期へのスケジュール変更があり、計画を大幅に下回る。
- ・ 補助金の太陽光発電への重点配分や、政権交代に伴う政策動向の様子見が広がり、市場は一時的に停滞。

(11) セグメント別受注残高の状況



【概況】

- ・ 上期の受注は電力・原子力製品を除き低調であったが、下期は各製品の受注回復を見込んでおり、受注残高は大幅に増加する見通し。

【電力・原子力製品】

- ・ 09.9月末現在の電力・原子力製品の受注残高は789億円。その内、約7割が11.3期以降の売上を予定。
- ・ 更に10.3期末までに受注は60億円弱増加し849億円を予想。全社の受注残高に占める電力・原子力製品の割合は約30%。

第2部 中期経営戦略の概要

(1) 目指す企業像「ものづくりNo.1グローバル企業」

ものづくりNo.1グローバル企業

素材とメカトロニクスに関する世界最高水準の独創技術(差別化技術)から生み出され、市場や顧客の要望に応え続けるNo.1製品を送り出し、中長期的に世界市場で戦える企業

事業区分に応じた収益力の強化・事業領域の拡大戦略

既存事業

拡大事業

新規製品・新規事業

製品の差別化
高付加価値化

現場力

品質力
(より良いものを「つくる」)

X

供給力
(より効率的に「つくる」)

X

原価力
(より安く「つくる」)

(2) 経営理念と行動基準

ビジョン

— 変化創造企業 —

独創技術で変化を創り出し社会の発展に貢献する企業

経営理念

顧客に驚きと感動を与え続ける

変わり続ける意識を持つ

社会との共生を図り、継続的に利益を実現する

行動基準

- ① 信頼される製品・技術・サービスの提供
- ② 倫理・法令の遵守
- ③ 公正・透明な事業活動
- ④ 国際社会のルール尊重、環境の保護
- ⑤ 反社会勢力との対決
- ⑥ 企業情報の開示
- ⑦ 従業員を尊重、安全で良好な職場環境の確保
- ⑧ 経営トップによる問題解決、厳正処分

(3) 経営方針

1. 製品競争力の強化と収益力の向上

2. 戦略的投資の遂行と成果の追及

3. 新規製品・新規事業の円滑な立ち上げ

4. 技術・技能の伝承と人材育成

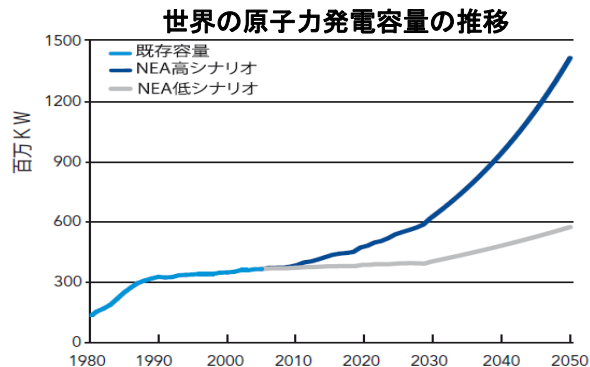
5. イノベーションを創出する風土

6. 企業活動の基盤強化

(4) 電力・原子力製品

最も信頼され、シェアNo.1を堅持する世界的リーディング事業

市場環境



(出典: OECD Nuclear Energy Agency「原子力エネルギー・アウトルック2008」)

- ・ 経済協力開発機構/原子力機関(OECD/NEA)は、全世界の原子力発電設備容量が、2008年の372百万kWから、2050年には高シナリオで1,400百万kW、低シナリオでも580百万kWへ伸びると予想。
- ・ 原子力発電は、新興国に於けるエネルギー需要の拡大と地球温暖化抑止のため、長期的に建設が続く。

10.3期の事業環境

- ・ 中国の原子力推進政策に変化は見られず、着実な進捗を見せている。米国では若干の遅れが見られる一方、中東や東南アジア等で新たな案件も浮上している。
- ・ 原子力発電用鍛鋼品市場においては、国内での再参入の動きや中国・フランスでの国産化の取り組みが見られるものの、大型品を中心に当社の技術的優位性に変化は無い。特に中国市場における火力から原子力へのシフトに伴い、原子力発電向け高級大型鍛鋼品の需要は旺盛。

11.3期以降の事業環境見通し

- ・ 新興国における電力需要の増大に加え、EU諸国における原子力政策の積極策への転換など、火力・原子力発電需要は中長期的に拡大傾向。
- ・ 原子力市場への競合の参入も予想されるものの、超大型鋼塊を用いた部材の大型化・一体化における技術的優位性の更なる拡大により、競争優位性を発揮、維持する。

事業戦略および目標

- ・ 大型設備投資の確実な遂行と早期の戦力化により、供給能力を着実に向上させ、事業規模を拡大する。
- ・ 顧客と長期に亘る供給を契約するビジネススキームを構築し、事業の長期安定化を図る。
- ・ 顧客の新型炉設計等へ積極的に協力し、顧客のパートナーとしての地位を強化する。

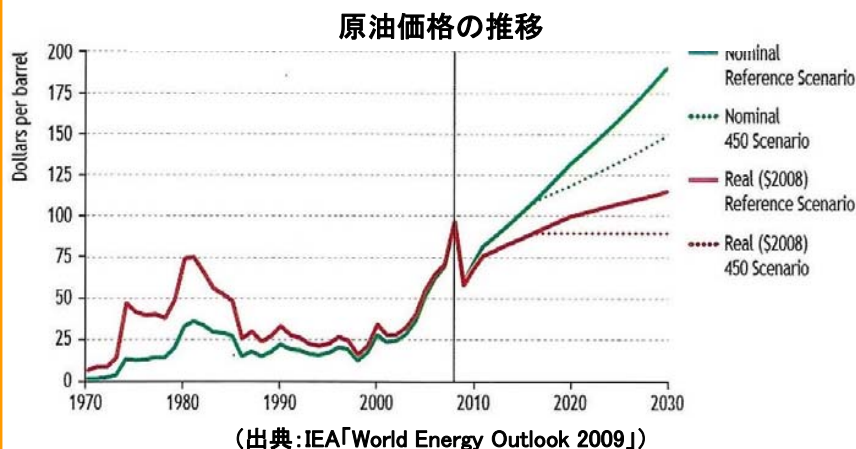
売上高 10.3期 470億円 ⇒ 13.3期 750億円以上

世界シェア(大型鍛鋼品) 80%

(5) 石油精製用圧力容器

石油精製のキーハードを供給する世界シェアNo.1事業

市場環境



- ・世界的エネルギー需要の一時的な低下と原油価格の急落を受け、原油開発プロジェクトにブレーキがかかった。
- ・但し、中長期的には中国・インド等新興国での需要増大を背景に、原油価格は上昇傾向にある。

10.3期の事業環境

- ・石油精製用圧力容器の需要が低迷する中、円高により競争環境は激化。

11.3期以降の事業環境見通し

- ・11.3期の売上分は受注済み。
- ・12.3期以降分は、石油需要の減少懸念はあるものの、重質油処理量の増加、環境対応(低硫黄化等)のための設備需要増に期待。
- ・中東・南米等の地域で開発案件が計画されている。
- ・但し、市場低迷による競争激化と円高を要因とする代価引き下げ圧力は依然として強く残る。

事業戦略および目標

- 世界に数少ない大型鍛鋼製リアクターの、材料から溶接・組立に至る一貫製造メーカーとして、
- ・競合他社に対する技術的優位性と、品質・納期管理面での優位性を背景に、市場のニーズを取り込む。
 - ・幅広い原価低減活動を展開し、収益性の向上を図る。

世界シェア(鍛鋼製大型リアクター)

30%

(6) クラッド鋼板・鋼管

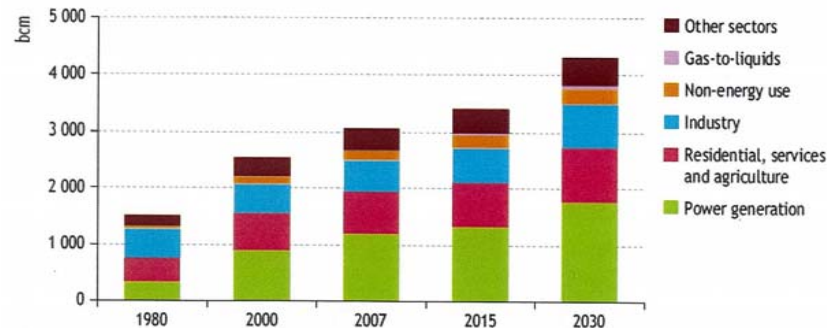
天然ガス・淡水化需要に応え、多様な製品を供給するグローバル事業

市場環境

- 金融危機の影響によって延期されていた海水淡水化プロジェクトは、10.3下期より回復の兆しが見られる。
- 天然ガス開発プロジェクトは、遅れていた大型案件が進捗を見せている。長期的には天然ガス需要は増大が見込まれる。

世界の天然ガス需要の推移見通し

(単位: 10億 m³)



(出典: IEA「World Energy Outlook 2009」)

10.3期の事業環境

- クラッド鋼板は、市場は10.3期下期以降徐々に回復を予想するも、円高により厳しい価格競争環境にある。
- クラッド鋼管は、10.3期下期に豪州案件の受注を見込んでおり、堅調に推移すると予想。

11.3期以降の事業環境見通し

- クラッド鋼板は、中東におけるインフラ需要の増大に伴い、淡水化設備需要の伸長が期待できる。
- クラッド鋼管は、天然ガス開発案件が豪州及び中東等で計画されており、需要は引き続き堅調に推移すると予想。

事業戦略および目標

- 世界的な淡水化・天然ガス需要に対応し、競合他社を凌駕する供給能力と高付加価値化により、事業の安定化・拡大を図る。
- 原子力発電用途のクラッド鋼板採用拡大に取り組む。
- 生産性向上等によりコスト競争力を強化。

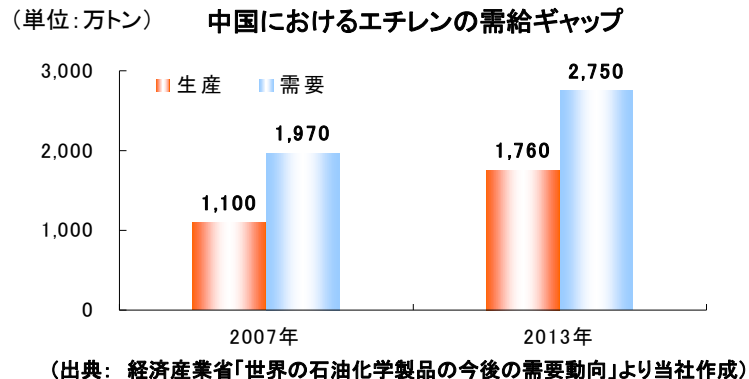
世界シェア

40%

(7) 樹脂製造・加工機械

No.1製品をラインアップする総合樹脂機械事業

市場環境



- 樹脂原料の需要は金融危機の影響から徐々に回復。特に中国では2013年までに2007年から約4割の需要増大が予想されている。
- 新興国では生活水準の向上に伴いプラスチックの使用量が増大、原料であるエチレンの需給ギャップは拡大傾向が続く。

10.3期の事業環境

- 大型造粒機及びフィルムシート装置は、中国政府の景気刺激策の効果もあり、10.3期下期以降、受注拡大を予想。
- 金融危機の影響を受け世界的に設備投資意欲が減退するなかで、唯一活況を呈する中国市場での競争は激化。円高もあり、事業環境は厳しい。
- 二軸混練押出機は、国内設備投資の需要の落ち込みを受け市場縮小。

11.3期以降の事業環境見通し

- 新興市場では自国での消費のみならず輸出による経済成長を目的とした樹脂原料等の生産拡大を計画している。中国に続き、需要回復が遅れているBRICS諸国での計画再開が期待される。
- 樹脂製造・加工機械の競合メーカーは欧州に多く、競争環境及び受注採算は対ユーロの為替状況に大きな影響を受ける。

事業戦略及び目標

- 欧州におけるテストセンター設置を検討し、造粒機に次ぐ、二軸混練押出機、フィルムシート装置のグローバル市場での展開に取り組む。
- 設計の標準化、海外調達拡大、固定費の適正化等によりコスト競争力強化に取り組む。

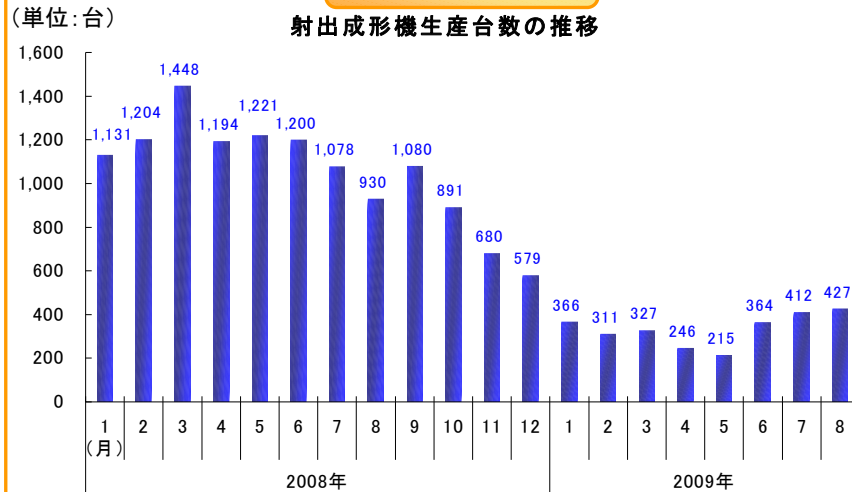
世界シェア(大型造粒機)

35~40%超

(8) 成形機

中・大型機を核とした総合成形機事業

市場環境



(出典: 経済産業省主要製品統計より当社作成)

- 金融危機により急激に縮小した市場は緩やかな回復基調にあり、前年同月比50%程度まで回復している。

10.3期の事業環境

- 中・大型機の主な顧客である自動車産業では、10.3期中の新たな設備投資は期待できず、厳しい状況が続く。
- 生活日用品向け中・大型機の需要は比較的堅調ではあるが、市場縮小による競争激化のため、代価引き下げ圧力が強い。
- 小型ノートパソコン向けを中心に、中国IT産業関連市場では中・小型機を中心に回復が見られ、引き合いが活発化している。

11.3期以降の事業環境見通し

- 成形機需要の50%程度を占める自動車産業の本格的な生産水準の回復は、12.3期以降と予想。但し、中国は11.3期より先行しての回復・成長を予想。
- 自動車軽量化対応需要は11.3期に具体化し、12.3期以降の増加を期待。
- 生活日用品向け中・大型機は油圧から電動への置き換え需要が継続する。
- LED関連製品及び二次電池市場は、環境問題への対応のため、大幅な拡大が期待される。
- 新興国需要は今後も高い伸びが期待され、中国は輸出の過半を占めると予想。インドでは今後自動車関連需要の成長が期待される。

事業戦略及び目標

- 中国などからの海外調達拡大と固定費の適正化・変動費削減により価格競争力を強化する。
- ハイブリッド車・電気自動車部品等、成長分野の用途開発を推進する。
- 新興国需要の取り込みにより事業規模を拡大し、量産効果を発揮する。

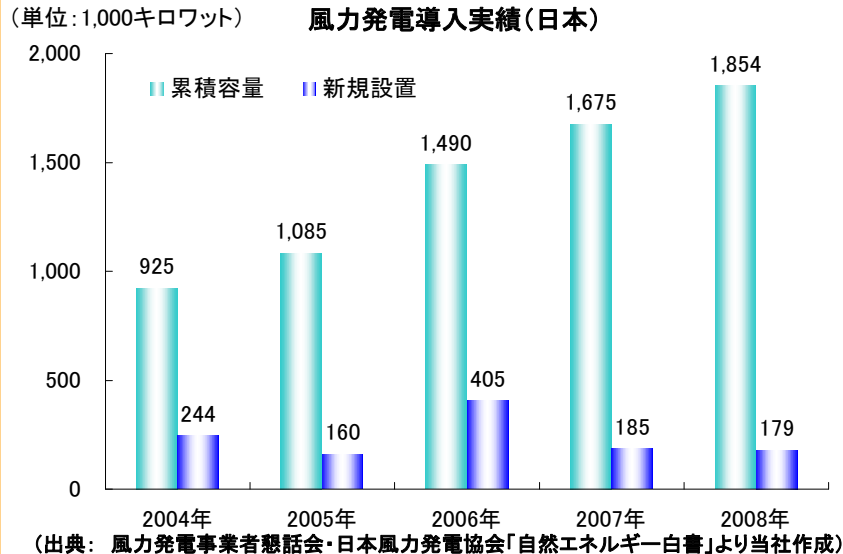
市場シェア(国内メーカー大型機)

35%

(9) 風力発電機器

高性能な製品と充実した保守体制による国内シェアNo.1事業

市場環境



- ・ 温室効果ガスの1990年比25%削減目標もあり、長期的には拡大市場。

10.3期の事業環境

- ・ 補助金の太陽光への重点配分、環境アセスメントの強化等の影響により、新規設置は伸び悩み。

11.3期以降の事業環境見通し

- ・ 国内の風力発電導入量は、今後の政府の政策によるところが大きく、一時的な成長の鈍化も懸念される。
- ・ 但し、政府の温室効果ガス排出量25%削減方針もあり、環境問題を背景に、長期的には大きな成長が予想される。
- ・ 大臣認定制度の導入や補助金制度等あり、国内メーカーに有利な状況が続くと見られる。

事業戦略および目標

- ・ 市場拡大に対応し11.3期150基／年の生産体制を完成させる。
- ・ 新たな市場ニーズに対応し、次世代の大型風車開発に取り組む。
- ・ 部品調達体制の強化により収益力の向上に取り組む。
- ・ メンテナンス体制の拡充により顧客の一層の信頼を獲得する。

市場シェア 国内50%

(10) 室蘭製作所における設備投資実施状況

大型鍛鋼品供給能力拡大に向けた設備投資は計画通り進行中

		09.3期	10.3期	11.3期	12.3期	着工率
ステップ1	製鋼	→				100%
	熱加工	→				
	機械	→				
	組立他	→				
ステップ2	製鋼	→				90%
	熱加工	→				
	機械	→				
原子力用鍛鋼品 生産能力 (ユニット/年)		5.5	→	8.5		ステップ1
				8.5	12	ステップ2

※着工率 = 設備投資着工金額 / 設備投資計画総額



大型設備投資が進む室蘭製作所

JSW 日本製鋼所
